



堀小だより

冬休み号

発行責任者：校長 渡瀬 穰介

整理整頓の大切さについて考える

～掃除の時間は成長の時間～

副校長 佐々木 光治

明日から冬休みが始まります。あと数日で今年も終わり、新しい年を迎えます。

年末が近づくと、新しい年をはつらつと出発できるよう「大掃除」をすることがあります。掃除をして周りがきれいになると、自分もみんなも明るく、すがすがしい気持ちになります。心もすっきりします。たまった埃を取れば、火事の予防にもなります。家族みんなで掃除をすれば、日頃、掃除をしているおうちの人の苦勞も分かり、感謝の気持ちをもつこともでき、家族の絆も強くなるものであると思います。

自分で掃除をして身の回りを片付けると、物を探す時間を短縮することができます。ある研究によると、残業が多い会社で業務時間に関する調査をしたところ、年間 150 時間もの時間を「物探し」に費やしていたという結果が出たそうです。年間 150 時間を 1 日に換算すると、平均 36 分もの時間は探し物をしている時間ということになります。このことから、「物を探す」時間がいかに無駄か、よく分かります。そこで、効率よく行動するために「整理整頓」がポイントになります。

よく「整理整頓」という言葉を使いますが、「整理」と「整頓」とは意味が違います。「整理」とは、必要な物だけを残して不必要な物を捨てること、「整頓」とは、整理して残った物をいつでも取り出すことができるようにすることです。つまり、整理整頓とは整理をしてから整頓をすることであり、不要な物を捨て、必要な物を

探しやすくすることなのです。

この「整理整頓」を児童の生活に置き換えて考えます。もう使えなくなった文房具や洋服、おもちゃなどの道具を処分することが「整理」、残した必要なものをいつでも使いやすように机の中や棚などにきれいに分かりやすく配置することが「整頓」になります。すなわち、整理整頓とは「次に使いやすようにするための準備」を自分からすることにもなるのです。例えば、翌日の持ち物を用意するとき、教科書や鉛筆などがどこにあるか分かっていたら、短い時間で準備することができます。大事なものが見つからずに困ってしまうことも少なくなり、忘れ物も減るでしょう。

整理整頓を生活習慣として身に付け、普段から心掛けていくということは、自分のことは自分でできるようになるということで、それは、心の中に「責任感」を大きく育てていくことにもなるのです。ドイツのことわざに「人生の半分は整理整頓」というものがあるそうです。ドイツでも、整理整頓を生き方の基本として大事にしているのです。大切なことは国境を越え、万国共通であることが分かります。

掃除をする時間を「成長する時間」だととらえ、身の回りをきれいにするとともに、自分自身の心もきれいにすることができるような大掃除に、この冬休みにお子様と一緒に取り組んでみてはどうでしょうか。